



修書の辨

大野定孝詠草大ふとつ舟の内

洋学文庫  
文庫8  
A 180  
4









らうらうの氷けを折申ねたもろ子白い<sup>15</sup>雪うらう  
氷を折の<sup>16</sup>氷<sup>17</sup>折<sup>18</sup>申ねる<sup>19</sup>うらうらう

*Interpretation: 氷を折の氷折申ねるうらうらう*

玉橋人の<sup>20</sup>雪のうらうらうの<sup>21</sup>雪のうらうらう

雪のうらうらう<sup>22</sup>入<sup>23</sup>江<sup>24</sup>の<sup>25</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>26</sup>入<sup>27</sup>江<sup>28</sup>の<sup>29</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>30</sup>入<sup>31</sup>江<sup>32</sup>の<sup>33</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>34</sup>入<sup>35</sup>江<sup>36</sup>の<sup>37</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>38</sup>入<sup>39</sup>江<sup>40</sup>の<sup>41</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>42</sup>入<sup>43</sup>江<sup>44</sup>の<sup>45</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>46</sup>入<sup>47</sup>江<sup>48</sup>の<sup>49</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>50</sup>入<sup>51</sup>江<sup>52</sup>の<sup>53</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>54</sup>入<sup>55</sup>江<sup>56</sup>の<sup>57</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>58</sup>入<sup>59</sup>江<sup>60</sup>の<sup>61</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>62</sup>入<sup>63</sup>江<sup>64</sup>の<sup>65</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>66</sup>入<sup>67</sup>江<sup>68</sup>の<sup>69</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>70</sup>入<sup>71</sup>江<sup>72</sup>の<sup>73</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>74</sup>入<sup>75</sup>江<sup>76</sup>の<sup>77</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>78</sup>入<sup>79</sup>江<sup>80</sup>の<sup>81</sup>うらうらう

雪のうらうらう<sup>82</sup>入<sup>83</sup>江<sup>84</sup>の<sup>85</sup>うらうらう

○ 亂葉川をいおのさきすまにさくさくさめりてあま  
○ 奇峰をらふ計にほろりけりてあまの袖にさきさ  
○ 六右折の中りてさきさきけりておとあまきり  
○ 竜の渡路のうらみおの糸をさきさき  
○ さまりて折居の折はさきさきあまのまをさきさ  
○ 川にさきさき折居りてさき  
○ 船をさきさきおの心おあまのまをさきさ  
○ ちさきあまのまをさきさ  
○ かねのさきさきさきさきさきさきさきさきさき  
○ 平に折居りてさきさきさきさきさきさきさき

○ 折もさきさきあまのまをさきさきさきさきさきさき  
○ ちさきあまのまをさきさきさきさきさきさきさき  
○ 川にさきさき折居りてさき  
○ 船をさきさきおの心おあまのまをさきさ  
○ ちさきあまのまをさきさき  
○ かねのさきさきさきさきさきさきさきさきさき  
○ 平に折居りてさきさきさきさきさきさきさき  
○ 乱葉川をいおのさきすまにさくさくさめりてあま  
○ 奇峰をらふ計にほろりけりてあまの袖にさきさ  
○ 六右折の中りてさきさきけりておとあまきり  
○ 竜の渡路のうらみおの糸をさきさき  
○ さまりて折居の折はさきさきあまのまをさきさ  
○ 川にさきさき折居りてさき  
○ 船をさきさきおの心おあまのまをさきさ  
○ ちさきあまのまをさきさき  
○ かねのさきさきさきさきさきさきさきさきさき  
○ 平に折居りてさきさきさきさきさきさきさき

西奇折 千石三石為



淡路の... 杉

杉の... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

淡路の... 杉

杉の... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉

杉... 杉



きつて居る人のこゝろに  
あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて

あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて

あつたはらへて

あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて

あつたはらへて

あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて

あつたはらへて

あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて

あつたはらへて

あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて

あつたはらへて

あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて  
あつたはらへて

五ノ中

かきつゝの首さしはくさるゝとていふことかきつゝは枝  
おもしろき事なりとていふことかきつゝは枝

夕枝 きりぎりす

様こそ侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事  
きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事

遠むとて思ふ きりぎりす

遠むとて思ふ きりぎりす  
きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事

きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事

きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事  
きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事

きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事

きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事  
きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事

舟中 きりぎりす

舟中 きりぎりす  
きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事

舟中 きりぎりす

舟中 きりぎりす  
きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事

舟中 きりぎりす

舟中 きりぎりす  
きりぎりすの侍候ね侍士の夕枝はきりぎりすなりとていふ事



とるのそけいしん所の夕日松影をむなしくしる所松林

垣松善州 亦府非去

宗坊の松影をみるに松影はしる所松林

系松

松影をみるに松影はしる所松林  
松影をみるに松影はしる所松林  
松影をみるに松影はしる所松林  
松影をみるに松影はしる所松林  
松影をみるに松影はしる所松林

松影

松影をみるに松影はしる所松林  
松影をみるに松影はしる所松林  
松影をみるに松影はしる所松林  
松影をみるに松影はしる所松林  
松影をみるに松影はしる所松林

松影をみるに松影はしる所松林

松影をみるに松影はしる所松林

松影をみるに松影はしる所松林

松影をみるに松影はしる所松林

松影

松影をみるに松影はしる所松林

松影をみるに松影はしる所松林

松影

松影をみるに松影はしる所松林

松影をみるに松影はしる所松林

おこ

高みの山山のくたけあはるるのけしきもさきさき  
はらからしむるあはるるのけしきもさきさき

はらからしむるあはるるのけしきもさきさき

ふたふたのけしきもさきさき

おこ

さのけしきもさきさき

さのけしきもさきさき

さのけしきもさきさき

おこ

さのけしきもさきさき

さのけしきもさきさき

さのけしきもさきさき

おこ

さのけしきもさきさき

さのけしきもさきさき

おこ

さのけしきもさきさき

さのけしきもさきさき

さのけしきもさきさき

何んぞ花を名づるまはの沖に常に白く花をうけりかな  
なほのなほの人の根はうらまへの根をうけり  
根はあなつたにうらまへの根はうけり

人の花をうけりてかゝる

花のうらまへの根をうけりてかゝる  
花のうらまへの根をうけりてかゝる

花をうけり

花のうらまへの根をうけりてかゝる  
花のうらまへの根をうけりてかゝる

花をうけり

花のうらまへの根をうけりてかゝる  
花のうらまへの根をうけりてかゝる

花をうけり

花のうらまへの根をうけりてかゝる  
花のうらまへの根をうけりてかゝる

花をうけり

花のうらまへの根をうけりてかゝる  
花のうらまへの根をうけりてかゝる

花をうけり

言と花

花をよめるのしるしは花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心

花の心

花の心は花の心は花の心は花の心  
花の心は花の心は花の心は花の心









ちきんこのさくら川に流るる水はさくら川に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

最と歌

さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

傳奇

水はさくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

伝説

さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

あめりけのさくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

伝説

あめりけのさくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

伝説

あめりけのさくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

あめりけのさくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

あめりけのさくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

あめりけのさくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に  
さくら川に流るる水はさくら川に流るる水に流るる水に

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

東の流 津女とてまゝとて言ひなすはるる花のかりけ  
折の女にたうとてまゝの言ひなすはるる花のかりけ  
わらひはるる花のかりけ  
入るる情もいへる花のかりけ

と申お

花本如の花のかりけ  
花本如の花のかりけ  
花本如の花のかりけ  
花本如の花のかりけ  
花本如の花のかりけ

花のかりけ

花のかりけ  
花のかりけ  
花のかりけ  
花のかりけ  
花のかりけ

花のかりけ  
花のかりけ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a small red mark and continues with several lines of text. The handwriting is fluid and characteristic of the late 18th or early 19th century.

2. 11. 11  
1791

Handwritten text, possibly a signature or a specific note within the main body of text.

Handwritten text, possibly a signature or a specific note within the main body of text.

Handwritten text, possibly a signature or a specific note within the main body of text.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a small red mark and continues with several lines of text. The handwriting is fluid and characteristic of the late 18th or early 19th century.

おぼし

おぼしきものなるべし  
おぼしきものなるべし  
おぼしきものなるべし  
おぼしきものなるべし

文

おぼしきものなるべし  
おぼしきものなるべし  
おぼしきものなるべし  
おぼしきものなるべし

州

おぼしきものなるべし  
おぼしきものなるべし  
おぼしきものなるべし  
おぼしきものなるべし

Handwritten text in cursive script, likely a transcription of a document or a letter. The text is written in black ink on aged paper. There are several red markings, possibly initials or corrections, scattered throughout the page. The text appears to be a mix of Latin and German words, possibly related to a historical or scientific document. The handwriting is fluid and somewhat slanted.

女子名

夢

Handwritten text, possibly a signature or a reference to a specific part of the document.

Handwritten text in cursive script, likely a transcription of a document or a letter. The text is written in black ink on aged paper. There are several red markings, possibly initials or corrections, scattered throughout the page. The text appears to be a mix of Latin and German words, possibly related to a historical or scientific document. The handwriting is fluid and somewhat slanted.

舟をこいで川のほとりへ停まりて西を望む川ありて  
かた子とてはけしめを待たざらん河のほとりへ停まり

夕やけ

だもかきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ  
しうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ

秋樹の影 千鳥の歌

秋の葉のまはりしはの影にけしめを待たざらん河のほとりへ  
るるるよまの影にけしめを待たざらん河のほとりへ

草花の影

かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ  
かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ

茶

かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ  
かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ

平夜歌

かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ  
かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ

西寺子歌

かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ  
かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ

旅者歌

かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ  
かきこいしうららかにけしめを待たざらん河のほとりへ



あはれなきこころなれどなほのこころは人のこころなり

氷橋

こころのこころは氷の橋をたどるこころは氷の橋をたどる

あやみ草

あやみ草のこころはあやみ草のこころはあやみ草のこころ

あやみ草

あやみ草のこころはあやみ草のこころはあやみ草のこころ

あやみ草

あやみ草のこころはあやみ草のこころはあやみ草のこころ

あやみ草

あやみ草のこころはあやみ草のこころはあやみ草のこころ

あやみ草

あやみ草のこころはあやみ草のこころはあやみ草のこころ

あやみ草

あやみ草のこころはあやみ草のこころはあやみ草のこころ

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

入信... 神... 石... 木... 花... 葉...  
Handwritten text in the middle of the right page, starting with '入信' and '神'.

Handwritten text in the lower middle of the right page.

お... 公...  
Handwritten text at the bottom of the right page.

Handwritten text at the top of the left page, starting with 'お'.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the lower middle of the left page.

Handwritten text at the bottom of the left page.

伊勢中納のちねいさ子お言と

伊勢中納のちねいさ子お言と  
降るこ小川のちねいさ子お言と

伊勢中納のちねいさ子お言と

伊勢中納のちねいさ子お言と

高松子花

高松子花

高松子花

高松子花

高松子花

高松子花

松高菅蒲

松高菅蒲

松高菅蒲

高松子花

高松子花

高松子花

高松子花

高松子花

一 ねねー六三入の袖ねをある舟にうへかき舟にた

舟中子歌

舟のねねに舟ねねにしとあり舟をけり舟ねねにしとあり  
舟に舟に舟ねねにしとあり舟に舟に舟ねねにしとあり

舟中子歌

舟ねねに舟ねねにしとあり舟をけり舟ねねにしとあり  
舟に舟に舟ねねにしとあり舟に舟に舟ねねにしとあり

舟中子歌

舟ねねに舟ねねにしとあり舟をけり舟ねねにしとあり  
舟に舟に舟ねねにしとあり舟に舟に舟ねねにしとあり

舟中子歌

舟ねねに舟ねねにしとあり舟をけり舟ねねにしとあり  
舟に舟に舟ねねにしとあり舟に舟に舟ねねにしとあり

舟中子歌

舟ねねに舟ねねにしとあり舟をけり舟ねねにしとあり  
舟に舟に舟ねねにしとあり舟に舟に舟ねねにしとあり

舟中子歌

舟ねねに舟ねねにしとあり舟をけり舟ねねにしとあり  
舟に舟に舟ねねにしとあり舟に舟に舟ねねにしとあり

舟中子歌

舟ねねに舟ねねにしとあり舟をけり舟ねねにしとあり  
舟に舟に舟ねねにしとあり舟に舟に舟ねねにしとあり



な言をきくまゝにさういふ人々の言をきくまゝに  
おもしろいのである。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

重中翁

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

松信解花

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

母系子夜

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

おもしろい

おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。

まはせのけりは南へきこゆ川袖きとまを所なる

直おぬき

何とていふとまのちまこころもまのけりも  
ぬきまのまをまこころまをまのまをま

ふ川のまをまのまを

けりまのまをまのまをまのまをまのまを  
まのまをまのまをまのまをまのまを

原まのま

まのまをまのまをまのまをまのまを  
まのまをまのまをまのまをまのまを

まのまをまのまをまのまをまのまを

まのまをまのまをまのまをまのまを

まのまをまのまをまのまをまのまを

まのまをまのまをまのまをまのまを

まのまをまのまをまのまをまのまを

まのまをまのまをまのまをまのまを

まのまをまのまをまのまをまのまを

まのまをまのまをまのまをまのまを

まのまをまのまをまのまをまのまを

何れ中ねの角はまをまを

一、此の山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。

Utsunomiya no Kami no Utsunomiya

この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。

村

この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。

村

この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。

村

この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。

村

この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。

村

この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。

村

この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。この山は昔は、杉の林と云ふが、今は松の林に成りぬ。

村





とそんじしむるかかすれぬをさるまじきたるのた  
 ちかの子のきかんとさるまじきたるのた  
 ちかの子のきかんとさるまじきたるのた

かしこくしむるかかすれぬをさるまじきたるのた  
 ちかの子のきかんとさるまじきたるのた

かしこくしむるかかすれぬをさるまじきたるのた  
 ちかの子のきかんとさるまじきたるのた

南人の子、南の汝よと名うまう、父清を源と名うまう  
 南松よ本一たる洞と名うまう、父清を源と名うまう

汝の身、清と名うまう、父清を源と名うまう  
 南松よ本一たる洞と名うまう、父清を源と名うまう

南松よ本一たる洞と名うまう、父清を源と名うまう

かしこくしむるかかすれぬをさるまじきたるのた  
 ちかの子のきかんとさるまじきたるのた

南松よ本一たる洞と名うまう、父清を源と名うまう

井...  
か女子...  
杜鵑  
...  
人...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

あな橋

あな橋...  
...  
...

あな橋

あな橋...  
...

あな橋

あな橋...  
...

竹の葉うらうらとあつらふ函のにらうはまはくし

秋風如秋

うらうらのさるねそしけどめい夕風おれとさしらす  
秋まきさあふる府はくくううものきねたなきかたのま

徳川中時

いぬをたつとくふのいぬねしはくくくくくくくくくく  
横川うらうらと秋のさるねのさるね斗きくくくく

東宮藩 名々々々

松木うらうらとくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
水鏡うらうらと河内の家はくくくくくくくくくくくく

水鏡日海堂

葉の花をさくま侍に御侍も水鏡亭一とくくくくくくく

花宮藩

おははあふらめくねるのち宮藩信くくくくくくくくくく  
もあやまねもるなふくくくくくくくくくくくくくく

遠山

おらねさきたかたのくくくくくくくくくくくくくくくく  
とまよのねのよれくくくくくくくくくくくくくくく

涼風

さうなる言のたれ井はさるる乳のしるしなれはさる  
まゝにたぬのたれしるしはたぬのたれしるし源のたれ

井のつらさちいささうしはたぬたにさるるのたれさるる  
さるる入るあはしるるたにさるるのたれしるしはたぬ

井のたれしるしはたぬのたれしるしはたぬのたれしるし

さるる入るあはしるるたにさるるのたれしるしはたぬ

さるる入るあはしるるたにさるるのたれしるしはたぬ

相見りあはしるるたにさるるのたれしるしはたぬ

おろふ入るあはしるるたにさるるのたれしるしはたぬ

おろふ入るあはしるるたにさるるのたれしるしはたぬ

おろふ入るあはしるるたにさるるのたれしるしはたぬ

おろふ入るあはしるるたにさるるのたれしるしはたぬ

おろふ入るあはしるるたにさるるのたれしるしはたぬ

天を... 信に... 際... 命...

調

か... の... 大... 人... の... 命...

序

あ... づ... け... う... の... 命...

序

あ... づ... け... う... の... 命...

序

あ... づ... け... う... の... 命...

序

あ... づ... け... う... の... 命...

序

あ... づ... け... う... の... 命...

秋花名算

あ... づ... け... う... の... 命...



添々之

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也

又之のまに中洲を横すりてなるもの小舟なるもの

此の松は以河入りなるもの大舟の本より採りたる也



Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

右の板のすね際... (Right side of the board's edge...)

下は... (Below...)

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Handwritten text at the top of the left page, possibly a title or header.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

Handwritten text in the middle of the left page.

若深くあはれきりてきこふなりとてしるすのさうら  
あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら

命氣正身

源一とてしるすのさうらあはれきりてきこふなり  
あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら

苦徳

お尋てしるすのさうらあはれきりてきこふなり  
あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら  
あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら  
あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら

あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら

神のまはるるのさうらあはれきりてきこふなり  
あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら

源氣正身

あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら  
あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら

命氣正身

あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら  
あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら

苦徳

あはれきりてきこふなりとてしるすのさうら

まをける入るうらにまをいね糸おるるから下を

何時中の葉の才をさるねんを源

美玉のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

何は中のまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

松のまをいねのまをいねのまをいね

源も入る

この外はふくまきくーは入てまおのさばりあつた

吹雪降

この外はふくまきくーは入てまおのさばりあつた  
増のうーまきくーは入てまおのさばりあつた

糸多米松

糸多米松  
糸多米松  
糸多米松

樹はま

樹はま  
樹はま  
樹はま

いんげん

いんげん  
いんげん  
いんげん

いんげん

いんげん  
いんげん  
いんげん

いんげん  
いんげん  
いんげん

ねん  
二十

ASSOCIATION OF THE ...

MEMBERS

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

之秋

青秋のにけりし一たるきりしは秋のきりしは  
日暮のきりしは秋のきりしは秋のきりしは  
秋のきりしは秋のきりしは秋のきりしは  
秋のきりしは秋のきりしは秋のきりしは

一亭のねむりしは秋のきりしは秋のきりしは  
亭のねむりしは秋のきりしは秋のきりしは  
秋のきりしは秋のきりしは秋のきりしは  
秋のきりしは秋のきりしは秋のきりしは

秋のきりしは秋のきりしは秋のきりしは  
秋のきりしは秋のきりしは秋のきりしは  
秋のきりしは秋のきりしは秋のきりしは  
秋のきりしは秋のきりしは秋のきりしは

Autumn in the present life

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

秋のこころ

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

秋のこころ

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

秋のこころ

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

秋のこころ

秋のこころはさびしきものなりけり  
秋のこころはさびしきものなりけり

神のまはりのうらやまのたけのこちのたけのこち

水きと秋

秋のまはりのうらやまのたけのこちのたけのこち  
うらやまのたけのこちのたけのこち

うらやま

うらやまのたけのこちのたけのこち  
うらやまのたけのこちのたけのこち

うらやま

うらやまのたけのこちのたけのこち  
うらやまのたけのこちのたけのこち

うらやま

うらやまのたけのこちのたけのこち  
うらやまのたけのこちのたけのこち

うらやま

うらやまのたけのこちのたけのこち  
うらやまのたけのこちのたけのこち

うらやま

うらやまのたけのこちのたけのこち  
うらやまのたけのこちのたけのこち

うらやま

うらやまのたけのこちのたけのこち  
うらやまのたけのこちのたけのこち



秋の情は秋の暮れにふとねと文をねてうらうらと暮る  
秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る

何と秋来

何と秋来たるは秋の暮れにふとねと文をねてうらうらと暮る  
海人の子あちち秋の暮れにふとねと文をねてうらうらと暮る

何と秋来

何と秋来たるは秋の暮れにふとねと文をねてうらうらと暮る  
秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る

何と秋来

何と秋来たるは秋の暮れにふとねと文をねてうらうらと暮る  
秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る

大正十二年

秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る  
秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る

何と秋来

秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る  
秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る

何と秋来

秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る  
秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る

何と秋来

秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る  
秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る

何と秋来

秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る  
秋の暮るるにふとねと文をねてうらうらと暮る

おろふくうきくすけりるるねねくうの秋はけきうかうきり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

あふのいもあらしにまはれ旅ふ州のすくく秋はまふりあふり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

おろふくすの秋はけきうかうきり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

あふのいもあらしにまはれ旅ふ州のすくく秋はまふりあふり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

おろふくすの秋はけきうかうきり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

おろふくすの秋はけきうかうきり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

おろふくすの秋はけきうかうきり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

おろふくすの秋はけきうかうきり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

おろふくすの秋はけきうかうきり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

おろふくすの秋はけきうかうきり

*Water Garden* 旅宿早秋 *Water Garden*

山中茶茶

ふちはいもあまの白い葉を採りてしるすの葉を煮たり

山寺煎茶

ふきのちみねにすりてしるすの葉を煎りてしるす

山寺煎茶

秋のたけのこを採りてしるすの葉を煎りてしるす

山寺煎茶

さくらんぼの葉を採りてしるすの葉を煎りてしるす

山寺煎茶

秋のたけのこを採りてしるすの葉を煎りてしるす

山中茶

ふきのちみねにすりてしるすの葉を煎りてしるす

山中茶

ふきのちみねにすりてしるすの葉を煎りてしるす

山中茶

ふきのちみねにすりてしるすの葉を煎りてしるす

山中茶

ふきのちみねにすりてしるすの葉を煎りてしるす

山中茶

ふきのちみねにすりてしるすの葉を煎りてしるす

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

花のさきの中は花いとも花さきう花さき女は花さき  
花さきう花さきう花さき花さき花さき花さき花さき

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

花さきう花さきう花さきう花さきう花さきう花さきう  
花さきう花さきう花さきう花さきう花さきう花さきう

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

か女子の袖は一つに花さきう花さきう花さきう花さきう

花のさきう花さきう花さきう花さきう花さきう花さきう

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

~~~~~ 花さき女 花~~~~~

ちやうしんらするいねとよき傳書なるかうもあつてくさ  
あつたのちやうしん傳の書も後ねの人といふやうに  
いふにやうな書

いふにやうな書  
いふにやうな書  
いふにやうな書

空文類

いふにやうな書  
いふにやうな書  
いふにやうな書

いふにやうな書  
いふにやうな書  
いふにやうな書

いふにやうな書  
いふにやうな書  
いふにやうな書

いふにやうな書  
いふにやうな書  
いふにやうな書

いふにやうな書  
いふにやうな書  
いふにやうな書

いふにやうな書  
いふにやうな書  
いふにやうな書

いふにやうな書  
いふにやうな書  
いふにやうな書

いふにやうな書  
いふにやうな書  
いふにやうな書



和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と  
かり庵といふ草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

社殿の花

神六のすんねん草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

神七のすんねん草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

神八のすんねん草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

神九のすんねん草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

神十のすんねん草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

神十一のすんねん草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

神十二のすんねん草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

西と南

和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

和名の亭山草子いさあつるいさ山草子のすんねん草と

しらのおはなはな 彩もよき 夕のたけ 雲もくちり

廿七夜中

いさよもかたき すすもみらぬの ぬきも ぬきも ぬきも ぬきも

中彩もよき ちりいのかき 一巻のちりい ちりい ちりい

こころのちりい ちりい 秋のちりい ちりい ちりい ちりい

ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい

あつちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい

ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい

あつちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい

あつちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい

花治中

あつちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい

あつちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい ちりい



山家

かき採の蒼くあまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

あまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

あまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

あまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

あまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

あまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

あまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

あまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

あまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

あまのふもとにきくも秋のやけりて  
あまのふもとにきくも秋のやけりて

ついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

おつち

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

おつち

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

あつちのついでにゆきあきまはね秋もさうぢうな松さうし

深山堂花

山を深林にまじりて松と山の堂を相まじりてうらやまなり  
山深く松のまじりて花の香を深山にまじりて

深山堂花

深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり  
深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり

深山堂花

深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり  
深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり

深山堂花

深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり  
深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり

深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり  
深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり

深山堂花

深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり  
深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり

深山堂花

深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり  
深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり

深山堂花

深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり  
深山堂花の松と山の堂を相まじりてうらやまなり

秋の夜は

秋の夜はうららかに静かに  
おぼろげにうららかに秋の夜は  
静かにうららかに

山崎橋衣

秋の夜はうららかに静かに  
おぼろげにうららかに秋の夜は  
静かにうららかに

山崎橋衣

秋の夜はうららかに静かに  
おぼろげにうららかに秋の夜は  
静かにうららかに

山崎橋衣

秋の夜はうららかに静かに  
おぼろげにうららかに秋の夜は  
静かにうららかに

山崎橋衣

秋の夜はうららかに静かに  
おぼろげにうららかに秋の夜は  
静かにうららかに

山崎橋衣

秋の夜はうららかに静かに  
おぼろげにうららかに秋の夜は  
静かにうららかに

山崎橋衣

秋の夜はうららかに静かに  
おぼろげにうららかに秋の夜は  
静かにうららかに

おのちまたさびしき松のうらみはなほこころにまはるる

函奇略

秋の夕の霞はけさのあきまのうらみはなほこころにまはるる  
けさのあきまのうらみはなほこころにまはるる

を待て申

人らさきしゆらきしゆらきしゆらきしゆらきしゆらきしゆら  
松のうらみはなほこころにまはるる

中夜待候

たつたねねいしゆらきしゆらきしゆらきしゆらきしゆら  
松のうらみはなほこころにまはるる

おちちちち横河の松のうらみはなほこころにまはるる

おちちちち横河の松のうらみはなほこころにまはるる

あふち

ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
松のうらみはなほこころにまはるる

秋有

おちちちち横河の松のうらみはなほこころにまはるる  
おちちちち横河の松のうらみはなほこころにまはるる

あふち

おちちちち横河の松のうらみはなほこころにまはるる  
おちちちち横河の松のうらみはなほこころにまはるる

何れもこの世の一切は皆空しくして夢に過ぎぬと云ふ事

山寺秋

くもるも人なき秋のしやうもさきかたの  
あつたもさうけりしものゆかりのすけりし

七言絶句

世の空しくもあつたもさうけりしもの  
ゆかりのすけりしものゆかりのすけりし

秋の暮

世の空しくもあつたもさうけりしもの  
ゆかりのすけりしものゆかりのすけりし

秋の暮

世の空しくもあつたもさうけりしもの  
ゆかりのすけりしものゆかりのすけりし

秋の暮

世の空しくもあつたもさうけりしもの  
ゆかりのすけりしものゆかりのすけりし

秋の暮

世の空しくもあつたもさうけりしもの  
ゆかりのすけりしものゆかりのすけりし

何は中村の角紙か

我座の石川を流るる水は  
若のねねしと旅旅のし  
松尾のきくしと

内室秋夕

いづれはほゆる様の光る  
輝きのほゆるし

海を舟

さしたるいづれは舟を  
主中村七夜

いれららぬのすもぬ

いれららぬのすもぬ

いれららぬのすもぬ

いれららぬのすもぬ

いれららぬのすもぬ

いれららぬのすもぬ

いれららぬのすもぬ

いれららぬのすもぬ

いれららぬのすもぬ

いれららぬのすもぬ

へりて中ちるをいれやふやねの静けさうまうりして  
我も如情と申す中ちるをうりてちるにちり  
中ち情と申す中ちるをうりてちるにちり

情衣

初秋の折もあつたにゆいといふにちりて  
衣の袖もあつたにゆいといふにちりて

衣

夕方の空は青い空にちりてちりて  
夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて

夕方の空は青い空にちりてちりて



あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
掛衣

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
伊豆旅宿をまぬ

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま

あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま  
あつちとちうはくさねぬらうらねるまのまのまのま



あらとちねうさうさうけくとまうさうの命を

山幸存

草むらうさうさう一ねさうさうのさう存存の命  
さうさうの命をさうの命をさうとさうとさうとさうと

新業を拓

さうの命をさうの命に我うさうとさうさうさう  
New Japan 新業を拓二月

新業を拓すめりさうさうさうさうさうさうの命  
新業を拓すさうさうさうさうさうさうさう

新業を拓すさうさうの命とさうの命とさうの命と

新中艦隊

甲の舟を舟とさうさうさうさうさうの艦隊  
艦隊を拓すさうさうさうさうさうさう

新業を拓すさうさうとさうさうさうのさうさう  
さうさうのさうさうとさうさうとさうさうと

甲

あらとちねうさうの命とさうの命とさうの命と  
さうさうとさうさうとさうさうとさうさうと

社務所

廣平の社務所とさうの命とさうの命と

啓事  
我山のまはつきのあし松の下風さうしやう街しう街  
昨日おき

松も本松ふつとをたしうつものまじりしうしう湖の中さ  
あの柿をつたしうしうしうかきうかきうしうしう

おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう  
おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう  
おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう  
おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう  
おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう  
おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう  
おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう  
おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう  
おしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしうしう

公葉のへはらひまきつりけり秋のころうけおとす  
あそびのしほりなむのこゝろ秋のしほり  
つりけりなむのこゝろ秋のしほり

何葉中ねの自注  
うらみ

たふねるもあそびのしほりなむのこゝろ

うらみのしほり

うらみのしほりなむのこゝろ  
うらみのしほりなむのこゝろ  
うらみのしほりなむのこゝろ

うらみのしほり

うらみのしほりなむのこゝろ  
うらみのしほりなむのこゝろ  
うらみのしほりなむのこゝろ

うらみ

うらみのしほりなむのこゝろ  
うらみのしほりなむのこゝろ

冬林甲

移すにふれてはたきしむより好くはやくらな  
ち付ふはやくいふはやくとちやくはやくはやくはやく

冬林乙

移すにふれてはたきしむより好くはやくらな  
ち付ふはやくいふはやくとちやくはやくはやくはやく

冬林丙

移すにふれてはたきしむより好くはやくらな  
ち付ふはやくいふはやくとちやくはやくはやくはやく

移すにふれてはたきしむより好くはやくらな  
ち付ふはやくいふはやくとちやくはやくはやくはやく

冬林丁

移すにふれてはたきしむより好くはやくらな  
ち付ふはやくいふはやくとちやくはやくはやくはやく

冬林戊

移すにふれてはたきしむより好くはやくらな  
ち付ふはやくいふはやくとちやくはやくはやくはやく

冬林己

移すにふれてはたきしむより好くはやくらな  
ち付ふはやくいふはやくとちやくはやくはやくはやく

移すにふれてはたきしむより好くはやくらな  
ち付ふはやくいふはやくとちやくはやくはやくはやく

移すにふれてはたきしむより好くはやくらな  
ち付ふはやくいふはやくとちやくはやくはやくはやく

一、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

二、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

三、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

四、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

五、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

六、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

七、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

八、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

九、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十一、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十二、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十三、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十四、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十五、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十六、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十七、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十八、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

十九、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、

二十、<sup>9</sup> 何れもあたまはすくなく、<sup>9</sup> 身をくまらぬ、<sup>9</sup> 心をくまらぬ、





秋の夜更けに  
 甲子年と云ふに  
 乙未年と云ふに  
 丙申年と云ふに  
 丁酉年と云ふに  
 戊戌年と云ふに  
 己亥年と云ふに  
 庚子年と云ふに  
 辛丑年と云ふに  
 壬寅年と云ふに  
 癸卯年と云ふに  
 甲辰年と云ふに  
 乙巳年と云ふに  
 丙午年と云ふに  
 丁未年と云ふに  
 戊申年と云ふに  
 己酉年と云ふに  
 庚戌年と云ふに  
 辛亥年と云ふに  
 壬子年と云ふに  
 癸丑年と云ふに  
 甲寅年と云ふに  
 乙卯年と云ふに  
 丙辰年と云ふに  
 丁巳年と云ふに  
 戊午年と云ふに  
 己未年と云ふに  
 庚申年と云ふに  
 辛酉年と云ふに  
 壬戌年と云ふに  
 癸亥年と云ふに

乙未  
 丙申  
 丁酉  
 戊戌

秋の夜更けに  
 甲子年と云ふに  
 乙未年と云ふに  
 丙申年と云ふに  
 丁酉年と云ふに  
 戊戌年と云ふに  
 己亥年と云ふに  
 庚子年と云ふに  
 辛丑年と云ふに  
 壬寅年と云ふに  
 癸卯年と云ふに  
 甲辰年と云ふに  
 乙巳年と云ふに  
 丙午年と云ふに  
 丁未年と云ふに  
 戊申年と云ふに  
 己酉年と云ふに  
 庚戌年と云ふに  
 辛亥年と云ふに  
 壬子年と云ふに  
 癸丑年と云ふに  
 甲寅年と云ふに  
 乙卯年と云ふに  
 丙辰年と云ふに  
 丁巳年と云ふに  
 戊午年と云ふに  
 己未年と云ふに  
 庚申年と云ふに  
 辛酉年と云ふに  
 壬戌年と云ふに  
 癸亥年と云ふに

*Faint handwritten text in a cursive script, possibly Latin or a European language, covering the upper portion of the page.*

神を申すはいとくはの所ありとて

*Faint handwritten text in a cursive script, possibly Latin or a European language, covering the lower portion of the page.*

伊予守付角

伊予守の御書に  
山松の葉にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に

中宮葉

おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に

長州葉

おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に

浦千守

おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に

水戸葉

おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に

一宮葉

おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に

二宮葉

おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に  
おぼろの影にうらやの影に

松尾の言はれしこと

伊予の言はれしこと

山陰の言はれしこと

山陽の言はれしこと

松尾彦彦

松尾の言はれしこと

伊予の言はれしこと

山陰の言はれしこと

山陽の言はれしこと

松尾の言はれしこと

伊予の言はれしこと

山陰の言はれしこと

山陽の言はれしこと

松尾の言はれしこと

伊予の言はれしこと

山陰の言はれしこと

山陽の言はれしこと

松尾の言はれしこと

伊予の言はれしこと

山陰の言はれしこと

山陽の言はれしこと

書寫

4 書の田中にわろの甘は...  
5 書の木の葉は...  
6 書

7 書...  
8 書...  
9 書...  
10 書...  
11 書...  
12 書...  
13 書...  
14 書...  
15 書...  
16 書...  
17 書...  
18 書...  
19 書...  
20 書...

21 書...  
22 書...  
23 書...  
24 書...  
25 書...  
26 書...  
27 書...  
28 書...  
29 書...  
30 書...  
31 書...  
32 書...  
33 書...  
34 書...  
35 書...  
36 書...  
37 書...  
38 書...  
39 書...  
40 書...  
41 書...  
42 書...  
43 書...  
44 書...  
45 書...  
46 書...  
47 書...  
48 書...  
49 書...  
50 書...



折言正名

降つる雪の中より此もよして其時を以て折言正名

深山茶室

深山茶室 深山の茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

山中茶室

山中茶室 山中の茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

竹葉中茶室

竹葉中茶室 竹葉の中茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

竹林茶室

竹林茶室 竹林の中茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

深山茶室 深山の茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

山中茶室 山中の茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

竹葉中茶室 竹葉の中茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

竹林茶室

竹林茶室 竹林の中茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

深山茶室 深山の茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

山中茶室 山中の茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

竹葉中茶室 竹葉の中茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

竹林茶室 竹林の中茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて

深山茶室 深山の茶室のまじりて其のまじりて其のまじりて





Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

降る水の一葉... (Water falling like a single leaf...)

たつた静まり... (The stillness of the water...)

まゆみ... (Mayumi...)

基... (Foundation...)

おの... (Ono...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

Handwritten text at the top of the left page, possibly a title or header.

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

あつ... (Atsu...)

平林 芝子尚也

夕涼江のほとりよ 水もささるる 舟のたもとに 舟もささるる

松江 尚

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

山 尚

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟 尚

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟 尚

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟 尚

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる 舟もささるる

舟 尚

高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし  
花の香もたはる静よふのさよふすらの一夢さるる  
一はらうさる松をさるるさるるさるる松をさるる

高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし

高き松

高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし  
高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし

高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし

高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし

高き松

高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし  
高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし

高き松

高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし  
高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし

高き松

高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし  
高き松の梢は風はあはれきふはらわらうし

高き松



風舟音

風は舟の揺るはくはくしと袖はちとすしと

夜舟音

こゝろは舟の揺るはくはくしと袖はちとすしと

舟音

舟は舟の揺るはくはくしと袖はちとすしと

舟中舟音を記す

舟は舟の揺るはくはくしと袖はちとすしと

舟音

舟は舟の揺るはくはくしと袖はちとすしと

舟音

舟は舟の揺るはくはくしと袖はちとすしと



Handwritten text in a cursive script, possibly a mix of Latin and Japanese characters. The text is arranged in several lines, with some characters written in red ink. The script is dense and difficult to decipher, but appears to be a form of shorthand or a specific dialect.

梅

Faint handwritten text on the right page, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters are visible but difficult to read.

たのしみはあつたよきやーとてしからぬほどはるかな

Le grand amour

いづれは海をのびぬきぬきおぼしき人さへしつるかな

岸守恋

くまの人のあはれは行くをいふ所のなきいふはるかな

Le grand amour

あつた人のさきをねてあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき

美糸恋

あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき  
あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき

美石恋

あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき  
あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき

美衣恋

あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき  
あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき

あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき

あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき

美髪恋

あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき  
あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき

美顔恋

あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき  
あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき

美体恋

あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき  
あなをいふはなほいふの世にふかき世にふかき世にふかき

美声恋

Handwritten text in cursive script, likely a page number or title.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

英文書

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.



*Handwritten text in cursive script, starting with 'Handwritten text in cursive script'.*

*Handwritten text in cursive script, starting with 'Handwritten text in cursive script'.*

*Handwritten text in cursive script, starting with 'Handwritten text in cursive script'.*

その源は深き海にありて、  
流るる水は清く、  
光りて、  
水は清く、  
光りて、

軽女を夫人とす

侍りて、  
女は清く、  
光りて、  
水は清く、  
光りて、

侍りて、  
女は清く、  
光りて、  
水は清く、  
光りて、

侍りて、  
女は清く、  
光りて、  
水は清く、  
光りて、

侍りて、  
女は清く、  
光りて、  
水は清く、  
光りて、

侍りて、  
女は清く、  
光りて、  
水は清く、  
光りて、

侍りて、  
女は清く、  
光りて、  
水は清く、  
光りて、

振に... (Faint handwriting)

此書に

今... (Faint handwriting)

... (Faint handwriting)

... (Faint handwriting)

梅之節入

... (Faint handwriting)

... (Faint handwriting)

... (Faint handwriting)

... (Faint handwriting)

... (Faint handwriting)

... (Faint handwriting)

... (Faint handwriting)







恋歌

あはれなるこころをいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに

美少年恋

あはれなるこころをいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに

あはれなるこころをいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに

あはれなるこころをいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに

あはれなるこころをいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに

あはれなるこころをいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに

伊勢中納の角の恋の歌

あはれなるこころをいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに

乙女恋

あはれなるこころをいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに  
いかにいかにいかにいかに

梅の生花

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

梅の生花は、冬に咲く花で、

振子表

だちねのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
くらくらとまぬらうはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
不登ねの表

あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
限一ねの表

あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
今よりねほのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう

風人表

あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう

あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう

街き表

あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう  
あつちのうらまはくらくらとまぬらうはくらくらとまぬらう



説も人のたかき...  
うきうきの...  
水々々

たかき...  
たかき...  
たかき...

たかき

たかき...  
たかき...  
たかき...  
たかき...  
たかき...

たかき...  
たかき...

たかき

たかき...  
たかき...

たかき

たかき...  
たかき...

たかき

たかき...  
たかき...

たかき

たかき...  
たかき...

たかき...  
たかき...

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

山崎始人

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

いこうねらちいさするま髪をちりしほちよふかきさ  
まほちにちいさするあや丹のこころいふまはかくさ  
まほちにちいさするあや丹のこころいふまはかくさ

あや丹

あや丹のこころいふまはかくさ  
あや丹のこころいふまはかくさ  
あや丹のこころいふまはかくさ

あや丹のこころいふまはかくさ

あや丹のこころいふまはかくさ

あや丹のこころいふまはかくさ

あや丹のこころいふまはかくさ  
あや丹のこころいふまはかくさ  
あや丹のこころいふまはかくさ

あや丹のこころいふまはかくさ

あや丹のこころいふまはかくさ  
あや丹のこころいふまはかくさ  
あや丹のこころいふまはかくさ











祀

あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし

志入

あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし

貴之集の終へ人の赤紙返りてあま

あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし

あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし

あまのついでにちかきくしとあひらうし

あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし

あまのついでにちかきくしとあひらうし

あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし

あまのついでにちかきくしとあひらうし

あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし  
あまのついでにちかきくしとあひらうし

















新序年記卷之十

文久二年

三月二十日

大槻文庫

